

株式会社Jストリーム（第1回）																										
質問者	質問	回答																								
内田構成員	<p>CDNキャッシュサーバの設置基準の考え方について教えてください。十分にトラヒックが集まっていない地域等については、CDNサーバの設置が見送られるケースがあると思いますが、何がネックになっているのでしょうか。例えば、設置のために、必要なトラヒック量に基準を設けているといったことが一般的に言われておりますが、その理由として、設備や運用に関するコスト構造のうちネットワークコスト（バックボーン、足回り）、サーバコスト等の何がネックになっているかについて具体的にお示しいただけますでしょうか。</p>	<p>CDN業者は基本的にコンテンツ配信事業者から配信流量に応じて費用を頂戴するというビジネスモデルになっております。地域ごとに分散配置しエンドユーザーに近い拠点から配信の方が通信品質は上がりますが、分散配置したことでコンテンツ配信事業者からの売上が増えるわけではありませんので、基本的には拠点を増やす=コストアップとなります。そのため、拠点を増やすかどうかは、既存の設備を増強するよりも、拠点を増やした方が、全体コストが下がるかどうかで判断しております。（もしくは拠点を増やし既存の設備を縮退することで全体コストが下がる）</p> <p>すなわち、ご提示いただいたネットワークコスト（バックボーン、足回り）、サーバコストの何がネックになっているかというより、それらをトータルした運用コストが全体コストの削減、抑制につながるかがポイントとなります。</p> <p>ということがネックかということであると、ネットワークコストではバックボーンコストを抑えるために10Gbpsや100Gbpsとまとめて導入したいので、トラフィックが集まらないところに出しても効果ができません。また、100TBを超える配信コンテンツを持っているようなロングテール顧客（ex.OTT事業者）を抱えているとアクセスが少なくてもキャッシュ領域は大きくとらなくてはならないため、地方だからといって機器スペックは抑えられないので、設備過剰となってしまいます。</p>																								
東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社（第2回）																										
質問者	質問	回答																								
林座長	<p>N T T東西様からご説明のあった、マンションの光回線化ですが、マンションの入り口までFTTHが通っているのに、建物内の光化が出来ていないため、結果として十分なスピードが出ないというのは、宝の持ち腐れと申しますか、もったいない気がしました。マンション内の配線をVDSLから光化していくにあたって、配管無し物件で、配管を構築することへのオーナーの理解が費用負担等の面から得られないという話がスライド20頁あたりにございました。一方で、オール光化は重要な政策課題でもあると思いますので、VDSL 設置物件での光配線方式の導入を促進するために、オーナー等に対して、例えば補助金等で配管構築支援することも政策オプションとしてあるのではないかと個人的には思っています。こうした政策的支援について、その必要性や、これ以外に考えられる方策について（もしあれば）、どうお考えか、お教えいただけましたら幸いです。</p>	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>プレゼン資料20項にございますように、多くのオーナー様が配管工事費の費用負担が導入を躊躇われる理由となっており、補助金等の配管構築支援は有効な施策と考えます。実際に既設物件の場合、下表のとおり大きな負担となっています。なお新築の場合はより低コストで構築できるため、支援効果は非常に大きいものと考えます。</p> <p>一方で、インターネット対応はマンション選択する際の価値の1つとして認知されていますが、構内まで光であるかどうかはマンション選択の際の価値として一般のお客さまに広く認知はされていない状況にあると考えます。</p> <p>このため光配線有無がマンションの資産価値向上につながるという認識を広く持っていただくため、光配管・光配線の有無の情報開示等マンション側に対する情報開示ルールの整備も有効な手段ではないかと考えます。</p> <p><参考：配管構築工事額>（見積り調査実績） 構成員限り</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>世帯数</th> <th>工事金額</th> <th>平均工事額</th> <th>工事額/世帯数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11-20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>21-30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>31-40</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>200超</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><補足説明> 既設物件での工事費については・世帯数による工事規模の違いだけでなく、 ・施工方法(比較的安価な外壁設置、景観重視の屋内設置 等) ・工事範囲(配管構築が必要な距離の差分 等) ・建物構造(木造、鉄筋 等) といった様々な要素があり、物件ごとにばらつきがあります。</p>	世帯数	工事金額	平均工事額	工事額/世帯数	11-20				21-30				31-40				5				200超			
世帯数	工事金額	平均工事額	工事額/世帯数																							
11-20																										
21-30																										
31-40																										
5																										
200超																										